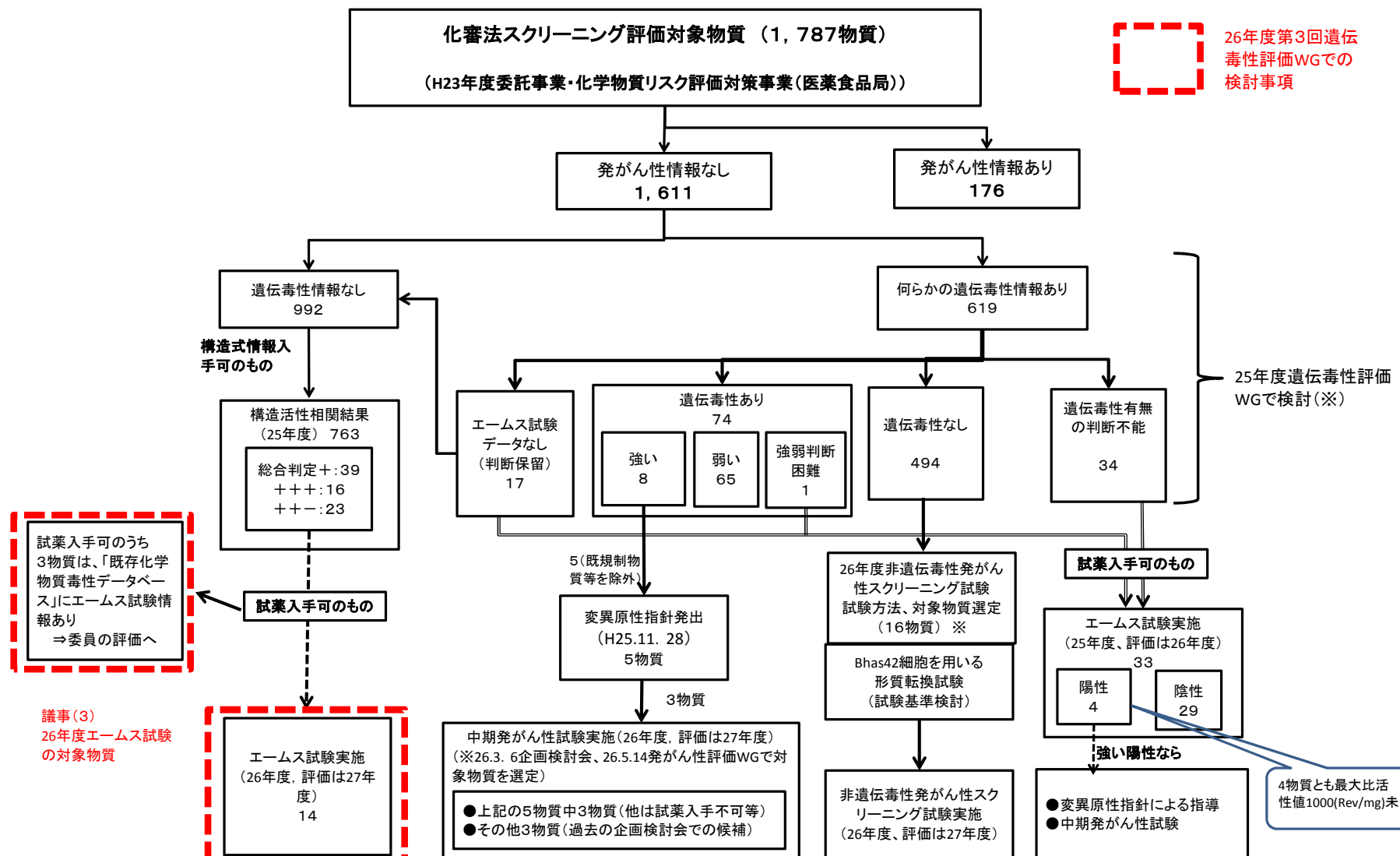


遺伝毒性評価ワーキンググループの検討事項(H25年度)



26年度第3回遺伝毒性評価WGでの検討事項



遺伝毒性評価ワーキンググループの検討事項(H26年度)

化審法スクリーニング評価対象物質 (12,920物質、うちCASあり12,512物質)

(H22年度一般化学物質届出、暴露クラスがクラス5及びクラス外の物質)

発がん性情報なし
12,343

発がん性情報あり
169

遺伝毒性情報なし
11,716

何らかの遺伝毒性情報あり 627
うち指導済12を除外 ⇒ 615

構造式情報入手
可のもの

構造活性相関予測の実施
(H26年度～)

(1) 遺伝毒性情報「あり」615のうち、エームス試験なし179
⇒ 構造式あり169(予測済)

(2) 遺伝毒性情報「なし」11,716のうち、製造・輸入量が多いもの
⇒ 約500(予測中)

エームス試験
データなし
(判断保留)
179
(うち1は規制済)

遺伝毒性あり 97

強い 33
(うち9は規制済又は指導済)

弱い 55

強弱判断困難 9

遺伝毒性なし
事務局: 260+2
委員: 64

遺伝毒性
有無の判断
不可
11

エームス
不備で
判断保留
2

議事(2)
25年度文献調査結果
に基づく遺伝毒性評価

(1)「+」26物質のうち19は、エームス試験データあり

・事務局: 3物質、いずれも陰性と評価

・委員: 16物質、今後評価を実施

総合判定「+」、かつ、
試験入手可のもの

エームス試験実施

(1)「+」26物質のうち5物質(26年度)

(2)「+」〇物質のうち〇〇物質(27年度)

議事(3)
26年度エームス試験
の対象物質

変異原性指針発出
〇〇物質

中期発がん性試験実施(27年度、評価は28年度)
(企画検討会、発がん性評価WGで対象物質を選定)

Bhas42形質転換試験
対象物質選定
(〇〇物質)

非遺伝毒性発がん性スクリーニング試験実施
(27年度、評価は28年度)

試験入手可のもの

エームス試験実施
(26年度、評価は27年度)
〇〇

陽性 〇〇

陰性 〇〇

強い陽性なら

●変異原性指針による指導

●中期発がん性試験

●(1)の5物質の評価

●25年度構造活性相関予測「+」39物質のうち、26年度エームス試験実施の14物質の評価(参考資料3-1)